

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

特定非営利活動法人基本塾 八坂西事業所

記入年月日：令和 6 年 12 月 11 日

		チェック項目	はい	どちらもない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	90%	5%	5%	千葉県の「児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例」（十一条2の一のロ）に参考とするよう定められている広さがあると考えている。
	2	職員の配置数は適切であるか	90%	5%	5%	厚労省の「児童福祉法に基づく通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準」（第三の1）に記載されている基準よりも多く配置されている。しかし、よりきめ細かな支援を行う場合、足りていないと感じる時もある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	50%		50%	今のところ利用者が不自由さを感じることなく推移しているが、必要になった場合は設備を改善していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	85%		15%	適正に行っているが、専門職の意見や情報を集めることで、よりよくなると考える。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%			厚生労働省の評価表を用いてアンケートを実施している。また、その結果をスタッフで共有し、次年度の運営やプログラム案に反映できるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%			ホームページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	71%		29%	外部評価に関して、業務改善につなげているが、まだまだ改善につなげていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			外部研修や外部講師を招聘しての定期研修には積極的に参加している。そして、その内容を他のスタッフにも伝達し、共有している。毎月定期的に外部講師による研修会が実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			アセスメントに関しては、専用のアセスメントシートを用いて契約時に実施している。また、個別支援計画を作成する上で保護者の方にニーズや課題等を傾聴し、スタッフで検討したうえで計画案を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			契約時に保護者の方より聴取して標準化されたアセスメントツールを使用している。より活用できるよう努めていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			活動プログラムについては、スタッフで話し合ったうえで活動案を作成する。プログラム終了後にはまた話し合い、活動の反省と改善案を出し合っており充実したプログラムになるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			季節の行事を取り入れたプログラムの企画をしている。日々のプログラムについては、利用者の状況や人数を考慮し、随時変更しながら、実施している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100%			平日の放課後は負担の大きなイベントや活動を行わないようにしている。土曜日や長期休業中には普段取り組めないようなプログラムを組んで実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			集団活動に参加するかどうかは利用者の意向を大事にしている。個別活動も本人の意向を重視して、支援に当たっている。子どもの状況に応じて活動できるように配慮している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			毎日、打合せの時間を必ず位置づけ、一日の流れを確認している。その際、活動についても役割分担や注意事項等を個々の子どもの動きも交えて確認している。新しいプログラムについては必ず試作したり、試行するようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	86%		14%	時間に余裕のない日もあるが、支援についての反省や改善点について話し合っている。その話し合いをもとに支援記録（打合せ記録）を作成している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	90%	10%		個別支援計画を踏まえての支援であったかどうか、支援が適切に行っていたかどうかの視点で記録を取っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			年2回、保護者の方との面談を設定し、モニタリングを行っている。そのモニタリングの内容を基に個別支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	100%			個別支援計画を基に生活の中で、個々の課題を達成できるように支援している。自信をもって生活できるように成功体験を積み重ねられるように活動を組み合わせさせて支援に取り組んでいる。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%			全ての機会に参画はできないが、できるだけ他の事業所の状況や国や県の最新情報を得るために参加したい。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	70%		30%	保護者を通じて、学校から学校だよりや学年だよりをいただくことで、下校時刻や学校行事等を把握している。送迎時に学校の先生とお会いした時には、その日の様子を聞くこともある。ドライバーさんを通して、子ども様子を聞くこともあり、それらの情報を基に支援の方針を考える。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					医療機関との連絡を必要とする利用者はいないが、今後必要な場合の連絡体制は整っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか					就学前時の情報は園や保護者や相談支援事業所から電話や訪問等により情報を共有させていただいているようだ。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか					まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は支援内容等の情報は提供したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか					まだ該当者がいないが、今後必要が生じた場合は情報の共有や助言等の連携が取れるような体制を築いていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	20%	40%	40%		近くの公園で近所の子どもたちと仲よく遊んでいるが、今後交流場所や他機関と連絡を取り、交流の機会を持ちたい。今しかし、感染症対策や周辺施設への移動距離等の課題により実施は難しい状況である。今後の課題である。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	50%		50%		八坂西事業所では参加できていない、法人の代表が協議会等に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	80%	20%			保護者の方との情報共有は、電話や連絡帳、または送迎時に口頭で行っている。また、年2回の面談も情報共有や課題等についての情報共有の場と考えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			100%		保護者から相談があった場合は、専門職の意見も踏まえて相談に対応しているが、ペアレント・トレーニングは実施していない。まだ、全スタッフが支援できる状況にはない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%				契約時や問い合わせのあったときは、丁寧に対応し理解してもらっている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%				保護者からの相談については適宜、迅速に行っている。相談方法については、面談、電話、連絡帳である。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	80%	20%			保護者学習会を毎月実施して、日頃の悩みなどを話し合う機会を設けている。実施内容については広報紙で全保護者に伝えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%				改善依頼のお話があった場合は、記録を取らせていただいている。その上、スタッフとの話し合いを行い、改善策を提案させていただいている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%				活動報告や行事予定や保護者会の案内など、毎月広報紙「優遊だより八坂西」活動プログラムを「八坂西通信」で発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	100%				個人情報については、鍵付きキャビネットに保管するとともに事業所外への持ち出しを厳しく規制している。保護者との連絡時の話の内容にも十分気をつけるように、言葉も選んで話すようにしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%				言語コミュニケーションだけでなく筆談などで伝達をとることもある。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	100%				本事業所では行っていない。就労支援事業所では、3か月に1回応援市場を開催して地域住民にもお出でいただいている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	80%	20%	緊急対応マニュアルは各家庭に配布しているが、感染症マニュアル、防犯マニュアルについては作成、配布していないので、早急に作成と周知を図りたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%		定期的に年3回を目安に避難訓練を実施している。自然災害や人為的災害についても、随時必要に応じて子どもたちに情報を提供している。実施計画や訓練結果については、計画書を作成し保存している。保護者にも広報誌を通じて報告している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%		虐待マニュアルを作成し、スタッフにも周知徹底を図っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100%		身体拘束場面を想定し、年度当初に文書で保護者に承諾をとっている。今後は、契約時に個人情報守秘に加えて虐待防止を保護者に説明し、同意を得られるようにしたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%		アレルギーについては毎年、年度当初にアンケートを取り、対応している。医師の指示を受けている子どもはいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	90%	10%	事例が発生した場合は、ヒヤリハットを作成してその都度、共通理解を図り、今後そのようなことがないように周知、徹底している。